

## 令和5年度学校関係者評価アンケートまとめ

学校関係者評価アンケートの回答形式は、昨年度からオンラインになった。しかし、紙で回収した年度は90%以上の回収率だったものが、オンラインになった昨年度は、保護者対象のアンケート回収率は64.5%（423/655）と低くなってしまった。今年度は繰り返しの回答依頼により、71.4%（468/655）と5ポイントほど数値を上げることができた。アンケートの精度を上げるためにも更に協力を求めている。今年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に分類され、学校の教育活動や行事もコロナ前の方法で実施できることが増え、評価委員が個々に学校行事や学校公開を参観することもできた。このことからアンケート結果を基にした分析とともに、各学校行事後の記述によるアンケートや実際に感じた児童や学校の様子についても触れたい。なお、文中の「肯定的な評価」は、アンケートの評価「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「わからない」のうち、「とても思う」「思う」を合わせたものの割合を示す。

### 学校の教育活動についての評価の高かった項目

- ・児童アンケートの評価項目24のうち、肯定的評価が80%を超えたもの—19項目
- ・保護者アンケートの評価項目39のうち、肯定的評価が80%を超えたもの—17項目
- ・地域アンケートの評価項目17のうち、肯定的評価が80%を超えたもの—16項目

特に評価が高かった項目は以下の通りである。

<児童>・授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。

【肯定的評価97.9%】（保護者同項目評価82.7%）

- ・先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。【97.9%】（保護者同項目評価80.8%）
- ・先生は、ていねいに指導してくれる。【95.8%】（保護者同項目評価83.3%）

<保護者>・学校行事は、子どもにとって楽しい。【94.4%】

- ・本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。【93.0%】
- ・学校行事は、子どもにとって達成感がある。【92.3%】

<地域>・学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。【100%】

- ・学校行事の内容は充実している。【97.7%】

**・本校の子どもたちは、あいさつをしている。肯定的評価【95.4%】**

例年、評価が高い項目の数値が高くなっているが、地域向けアンケートの「あいさつ」に関する項目でも高い数値が出ていることは特筆すべきであろう。同項目は、令和3年度が79.5%、令和4年度85.4%という数値であった。年々伸びてきており、決して低い数値ではないが、令和5年度の95.4%という数値は突出しており、本校児童と関わるほとんどの方にとって本校の児童の挨拶の習慣が肯定的に捉えられていると言える。学校公開で学校を訪れた際にも、廊下ですれ違う児童が元気に挨拶をする姿が見られた。機会を捉え児童にも挨拶の意味や大切さを伝え、良き伝統として今後も継続していってもらいたい。これは、学校での挨拶指導の取組だけではなく、家庭の教育力の高さ、そして登下校時に日々児童の安全を見守り、温かく挨拶の声をかけてくださり、学校と共に児童を育てる松原小の地域の教育力が表れたものと捉えている。改めて感謝申し上げたい。

### 広く本に触れる機会の充実

**児童「わたしは、本を読むことが好きである。」肯定的評価58.1(62.5%) 否定的評価32.4(39.9%)**  
**保護者「子どもたちは、読書が好きである。」肯定的評価57.1%(60.7%) ( )内は昨年度の数値**

「読書」に関する項目については、今年度も肯定的評価は6割程度に留まった。学校では、調べる学習に図書を使用したり、毎週の図書の時間が設定されていたりするなど、日常的に読書の機会は確保されている。また、「朝の保護者読み聞かせ」「ことり・たんぼぼの会のお話会」「梅丘図書館による出張おはなし会」など、読み聞かせの機

会は多く設定されている。その上、図書委員会を中心とする読書旬間の取組は工夫がこらされ、児童が楽しんでいる姿も見られる。アンケート項目の「読書」を「物語を読むこと」のみと捉えている児童が多いことも考えられるため、評価委員会では、「読書」を「広く本に触れる機会」と捉えて、「物語を読むこと」はもちろん、「調べる学習で本を使う。」「図鑑で調べる。」といった広い意味で、児童が本に触れる実態を明らかにすることが必要なのではないか、が議論になった。このため、次年度に向けてアンケート項目の文言についても検討を加え、項目の尋ね方の表現を工夫していきたい。併せて、学校には、今後も児童が本に触れる十分な機会と時間を保障するとともに、将来の読書習慣につながる活動の更なる充実を図ってほしい。

## 学び舎の区立中学校の情報提供、交流活動の充実と周知

### 肯定的評価（3年間の推移、[ ]内は5・6年学年別数値）

児童「区立中学校に関する情報が提供されている。」

R3 36.8% [5] 28.7% [6] 44.7%] → R4 58.5% [5] 46.3% [6] 68.8%] → R5 50.2% [5] 32.4% [6] 71.6%]

保護者「学び舎の区立（幼稚園）中学校についての情報が提供されている。」肯定的評価 41.5% (R4 33.1%)

児童「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。」 52.9%

R3 項目なし → R4 50.5% ([5] 27.5% [6] 69.8%) → R5 52.9% ([5] 28.6% [6] 81.8%)

保護者「本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成する『学び舎』による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。」 54.1% (R4 42.5%)

学び舎に関する項目について、3年間の推移を追ってみた。両項目とも、6年生の数値が着実に伸びているのが分かる。この3年間、コロナ禍の制限が徐々に解かれ、学び舎の区立中学校についての情報提供や直接的な交流活動が活発に行われるようになったことが要因と考えられる。引き続き、5年生や保護者に対しても、今後行われる交流の計画について伝えたり、あいさつ運動や運動会の運営補助に来る中学生の活動をキャリア教育に価値付けて伝えたりすることで周知を図り、両者の認知度を同様に上げていくことを期待したい。

## 自己肯定感を育む教育の着実な積み重ねと家庭との連携

児童「わたしにはよいところがあると思う。」肯定的評価 74.6% (R4 64.8% R3 58.5%) わからない 6.7% (17.7%)

この項目に関しても、3年間の数値を追ってみたところ、着実に数値を伸ばしているのが分かった。コロナ前の実施方法での教育活動が復活する中で、縦割り班活動や委員会等で高学年児童が学校のリーダーシップをとる機会や役割が増えた。児童が、その活動の中での成功体験や先生や友達に認められる経験を通して自分のよさを感じる機会があったことも一因として考えられる。しかし、自己肯定感は一朝一夕に上がるものではない。家庭や地域での経験をベースとして、学校等様々な人間関係の中で少しずつ培われて形成されていくものである。引き続き学校と家庭で連携して、児童が安心してありのままの自分を肯定できる環境をつくってほしい。

## タブレット型情報端末等ICTの活用の定着

児童「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」肯定的評価 94.3% (94.4%)

保護者「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」肯定的評価 67.7% (62.7%)

保護者「本校は、様々な教育活動（オンライン授業・通常授業・各種会議等）の中で、ZoomやMicrosoft Teams、ロイノート等のICT（情報通信技術）を適切に活用している。」肯定的評価 69.3% (69.5%)

ICTの活用については、すっかり定着した様子が伺える。学校公開でも、低学年からタブレット型端末を学習に使用する様子が見られた。ただ、児童の評価と保護者の評価との開きはまだある。学校は、引き続き活用の状況を保護者に十分に情報提供していくとともに、学校・家庭での使用に関するルールの徹底に努める必要がある。

## キャリア・パスポートの活用によるキャリア教育の充実

児童「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」肯定的評価 81.4% (81.8%)

保護者「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」肯定的評価 49.3% (42.1%)

20%超の上昇となった昨年度と同じくらいの高い数値となった。保護者への周知では課題が残るが、キャリア・パスポートの活用がさらに充実することで、児童にとって学校の教育活動におけるキャリア教育が当たり前のものになっていくのではないだろうか。内容の改善を含めて、更に充実させてほしい。